



# いわての サウンドスケープ

いわての魅力を“音”から考えるシンポジウムです。いわてには素晴らしい音風景がたくさんあります。自然が奏でる音、祭りの音、人が作業することで生まれる音、言いようもない静けさ... など、本当に様々です。季節によって変わる音もあるでしょう。少し前まではよく聞いていたのに最近聞こえない音もあるかもしれません。

そしていわての特徴の一つに、多くの伝統工芸が継承されていることが挙げられます。岩手県内に残る様々な伝統工芸・伝統産業を支える“匠”たちは、どんなサウンドスケープの中に生き、どんなサウンドスケープを作り出してきたのでしょうか？本シンポジウムでは3人の匠から常日頃感じているサウンドスケープについて率直に語ってもらうことで、いわて独特の音の感じ方、捉え方とサウンドスケープの関係について考えていきたいと思います。

また、平成8年、当時の環境庁は「日本の残したい音風景“100選”」を選定しました。いわての音風景からは「碓石海岸・雷岩（大船渡市）」「水沢駅の南部風鈴（奥州市）」「チャグチャグ馬コの鈴の音（滝沢村）」の3つが選ばれました。でも、もっともたくさんあるはずですよ。

そこでこの度「誰かに聴かせたい」いわての音風景」を広く募集しました。本シンポジウムでは、この結果を紹介し、匠の皆さんにも入っていただき、いわてのサウンドスケープについてディスカッションしたいと思います。

**5/20** 2017 土  
15:00- (開場14:30/終了17:30)  
**岩手県公会堂 21号室**  
(岩手県盛岡市内丸11番2号)  
参加費：一般1,000円 / 協会員・学生は無料

第1部  
15:00-

誰かに聴かせたい  
“いわての音風景”紹介

第2部  
15:40-

講演：匠が語る  
いわてのサウンドスケープ

-南部鉄器とサウンドスケープ-

田山貴紘氏 (タヤマスタジオ株式会社 代表取締役社長)

-ホームスパンの匠が感じるサウンドスケープ-

舞良雅子氏 (染織作家)

-南部杜氏が語る酒造りのサウンドスケープ-

久慈浩介氏 (株式会社南部美人 五代目蔵元代表取締役社長)

第3部  
16:45-

パネルディスカッション

パネリスト：久慈浩介氏×舞良雅子氏×田山貴紘氏

×木村直弘 (岩手大学人文社会科学部教授)

コーディネーター：船場ひさお (岩手大学COC推進室特任准教授)

<http://soundscape-j.org>

詳細・お申し込み・「いわての音風景」の応募はウェブをご覧ください。  
(シンポジウム終了後、情報交換会も開催予定)

主催：日本サウンドスケープ協会

企画：日本サウンドスケープ協会シンポジウム2017 in 盛岡 実行委員会 (船場ひさお・木村直弘)  
本件問い合わせ先：岩手大学COC推進室 船場ひさお funaba@iwate-u.ac.jp

パネリスト プロフィール



田山貴紘 タヤマスタジオ株式会社 代表取締役社長

1983年岩手県生まれ。岩手県盛岡市出身。父親は現南部鉄器伝統工芸士会会長、祖父はユネスコ無形文化遺産/国の重要無形文化財第一号の早池峰神楽元長老。埼玉大学大学院卒業後、(株)玄米酵素に入社。松下政経塾で塾頭を勤めた上甲見氏が主宰する青年塾第13期生として学ぶ。2011年東日本大震災でのボランティア活動を契機に、地域への貢献を考えるようになり、2012年末(株)玄米酵素退職、田山鐵瓶工房にて父親のもと職人見習い。翌2013年11月、タヤマスタジオ(株)を設立。現在に至る。



舞良雅子 染織作家

1961年、岩手県宮古市生まれ。85年、岩手大学教育学部教育専攻科修了。85～86年まで蠟川紘直氏に師事。98～2005年、岩手大学非常勤講師。朝日現代クラフト展招待出品(2004年、大阪)、REVELATIONS(2015年、グラン・パレ、仏)、JAPON TEXTILE(S)(2016年、TARNテキスタイル美術館、仏)などのグループ展、素材から見えるもの(2012年、萬鉄五郎記念美術館八丁土蔵、岩手)、舞良雅子展(2015年、光原社、岩手)などの個展を通じ、その独創的な作品は広く内外で親しまれている。近年はJapan CreativeのプロジェクトJC 09にホームスパンの作り手として参加。日本クラフト展優秀賞(1990年)、ジャパンクリエイション2003テキスタイルコンテストシルク部門賞(2002年)、岩手県美術選奨(2003年)など受賞。



久慈浩介 株式会社南部美人 五代目蔵元代表取締役社長

1972年、岩手県二戸市生まれ。東京農業大学・応用生物科学部醸造科学科卒。卒業後東京の南部美人総代理卸の(株)小泉商店で研修後、南部美人に戻り、製造部長として酒造り全般を指揮。2年目に初めて自分で担当した大吟醸が見事全国新酒鑑評会で金賞を受賞。冬は蔵で酒造りを指揮し、オフシーズンの春夏は全国各地を飛び回り南部美人と日本酒の良さを伝える「南部美人ライブツアー」を開催中。年に数回、全国の造り酒屋の仲間達とフランス、アメリカ、カナダ、香港、台湾などで酒の会やセミナーを開催している。日本最大の杜氏派閥である南部杜氏自釀清酒鑑評会で2001年、2002年は2年連続(合計4回目)の首席第1位に輝いている。さらに海外のコンテスト「モンドセレクション」でも8年連続のゴールドメダルを受賞している。東京農業大学 客員教授、日本吟醸酒協会 理事。

木村直弘 岩手大学人文社会科学部教授  
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構兼務

1961年、東京都渋谷区生まれ。89年、関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程(美学専攻)単位修得満期退学。日本学術振興会特別研究員他を経て、95年、岩手大学教育学部に助教授(音楽学)として赴任。以後、同准教授、教授を経て、現職(美学芸術学)。現在ほかに、放送大学岩手学習センター客員教授、宮沢賢治学会イーハトーブセンター理事、日本現代詩歌文学館企画委員。

船場ひさお 岩手大学COC推進室特任准教授  
ふるさといわて創造協議会  
若者・女性地域定着プロジェクト担当

1965年、栃木県氏家町(現さくら市)生まれ。九州芸術工科大学芸術工学部音響設計学科卒。(株)若林音響、千代田化工建設(株)などで音響に関する企画・設計・施工・新規事業開発を担当した後、2007年九州大学大学院芸術工学部 芸術工学専攻博士後期課程修了。横浜国立大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー講師、フェリス女学院大学音楽学部専任講師を経て2016年より現職。博士(芸術工学)。



日本サウンドスケープ協会 2017年度シンポジウム実行委員会では、盛岡で初めての開催にあたり「誰かに聴かせたい「いわての音風景」」を大募集しています。

いわてに住んでいる方も、かつて住んでいた方も、旅行で訪れた方も、どんな方からの応募でも構いません。どうぞ皆さんの情報をお寄せください。

ご応募は下のQRコードから、もしくはサウンドスケープ協会のwebからアクセスして、応募フォームに内容を記入の上送信してください。

- 《応募内容》
- ・誰かに聴かせたい「いわての音風景」
  - ・聴くことのできる場所(地名など)
  - ・聴くことのできる季節
  - ・応募理由とその音風景に関するエピソード

締切: 5月8日(月)  
※個人情報はいいただいた内容の確認にのみ使用します。

日本サウンドスケープ協会  
シンポジウム2017 in 盛岡 実行委員会  
船場ひさお・木村直弘

▼応募ページ直通



「いわての音風景」の応募はウェブをご覧ください。  
<http://soundscape-j.org>